

クラス	専門演習 101	担当教員	岡本 眞理子
		テーマ	社会問題に挑戦するソーシャル・ビジネスを学ぶ
		著書・論文 研究課題等	<p>(著書) <i>Grassroots Social Security in Asia</i>, 2011, (Chapter 3,7 分担) Routledge.</p> <p>『マイクロファイナンスへの JICA の支援事例分析』 国際協力機構, 2004 (共著) 『マイクロファイナンス読本』 明石書店, 2000 (共著)</p> <p>(論文) 「都市貧困問題に立ち向かうマイクロファイナンス」『都市問題』 第 99 巻 5 号 2008 年、「ネパール平野部農村における、マイクロファイナンスの急成長とその展望」『経済学雑誌』 第 105 巻第 1 号, 2004 年、「自立のための金融システムーネパールにおける信用組合づくりの教訓から」『農林金融』 54 巻第 7 号, 2002 年</p>
ゼミナール概要			
<p>キーワード： ソーシャル・ビジネス、アフリカ、紛争予防、社会貢献</p>			
<p>今、日本も世界も問題だらけだ。しかし、それを解決するのは政治だけではないし、無償の奉仕活動だけでもない。社会の問題に対して、儲けを目的にはしないが採算のとれるビジネスを立ち上げて取り組むという方法がある。2006 年にノーベル賞の対象となったマイクロファイナンスもその一つだが、今や世界には様々なソーシャル・ビジネスが登場している。</p> <p>これまで貧困と紛争といった問題山積の代表のようなアフリカでも、紛争は徐々に減少し、かつての内戦国も落ち着きをとりもどしつつある。そのアフリカを、憐れみと救済の対象としてではなく、大きな潜在力を持つ最後の巨大市場としてアプローチする企業も存在する。そのような企業は、利益だけを追求してその諸結果に関心のない植民地時代の企業とは少々ちがっているようである。また、新しい企業の進出と今までにない事業が広がり、目に見えて経済的成長が見られる。そこには、「面白い (期待できる)」アフリカがある。</p> <p>勿論、アフリカにはまだまだ貧困があり公共サービスが不足しているが、そこでどのような事業が可能かを知ることは、困難な問題にソーシャル・ビジネスとして取り組むことにもヒントを与えてくれる。</p> <p>そこで、このゼミでは、はじめに世界の「ソーシャル・ビジネス」の事例をまなび、次に、『アフリカ～動き出す 9 億人市場～』(ヴィジャイ・マハジャン著、英治出版) を題材に、どのようなことがアフリカでは可能かを検討してみる。</p> <p>ゼミの進め方</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) テレビのドキュメンタリーやインターネット情報などを活用して、ソーシャル・ビジネスの事例を探し、その仕組みや意義を報告する。 2) 『アフリカ～動き出す 9 億人市場～』を夏休みの間に読んでおき、どのようなヒントが得られたかを共有。 3) 後期に、アフリカの現在と過去を知るビデオを見て、現在の課題をみつけ、どのようなソーシャル・ビジネスが可能かを検討する。 			
担当教員からのメッセージ			
<p>好奇心、探究心の高い学生を歓迎します。</p>			